



新型コロナウイルス・臨時休校への対応 心のケアと無理のない取り組みを

ネットアンケートに寄せられた声から

新型コロナウイルス感染予防のため、3月2日から臨時休校が続いています。そして、それに向けての対応で、各市町や学校において、先生方の感染予防や子ども
の家庭学習等、工夫や努力をしながら取り組んできたことと思います。
尾北教労では、尾北の学校の状況や先生方の思いを寄せてもおおうと、抽出でネットアンケートをお願いして取り組みました(5月1日～15日)。ご協力いただきありがとうございます。アンケートの主な声を紹介いたします。学校現場の状況を冷静に見つめ、今後の対応についてともに考えたいと思います。

教職員の勤務状況

学校での勤務については、子どもや保護者の登校に備えることも含め、感染予防の取り組みが重要になってきます。これについては、多くの職場で、一定の配慮がなされているようです。一方、在宅勤務の通知が県教委から出されたにもかかわらず、学校によっては、家庭学習用のプリント作成などで、多くの職員が出勤している実情も見られます。

以下に、勤務状況に関する先生方の声を紹介します。

◎ほとんど自宅勤務で、交代で出勤。全員が集まらないよう主任者会を行ったり、学年で分けて出勤したりしている。
◎4～5人の当番班を作り、交代で出勤

する事になっていくが、休校中の家庭学習計画や課題づくりのため、多くの職員が出勤している。在宅勤務どころではない。
◎在宅勤務という形を取らせていただけるのはありがたい。
◎学校によっては、家庭学習のプリント作成などが大変で、多くの職員が出勤しているところもあると聞いたが、本校は、職員も家庭も、無理のない範囲の課題にしているの、コロナ感染予防の目的に沿い、当番出勤、在宅勤務の体制がほぼ守られていると思う。
◎感染防止からしたら在宅勤務が望ましいけれど、結局は学校でないとできない仕事に追われて出勤、という人が増えていきます。「子どもがいらないから暇だろう」という勝手な思い込みに振り回されてはいけないと思います。教師として毅然としていたい。

◎学年が重ならないように職員をグループに分けて、出勤します。普段は6人、保護者が課題を受け取りに来る日は10人の態勢です。当番の日以外はできるだけ来ないように言われました。ただ、課題作りや袋話めの時は、出勤します。このようなときは、密になりやすいです。仕方ないかな、とも思いますが。

◎学校によって、または同じ学校内でも個人の勤務の仕方にすこい差がある。休業期間中に殆ど出勤しない(在宅勤務)教員と毎日出勤する教員がいる。教員のコロナ感染予防も平等に考えるなら、全員に在宅勤務できる日数を平等に与え、それを執行するべきではないか。学校によっては、在宅勤務を取りづら
い雰囲気が出来上がっているように思う。オンラインのビデオ授業作りを熱心に行っている学校は、撮影場所を学校の教室で行う事が多いため、在宅勤務
が取りにくいのではないだろうか。

◎在宅勤務は本当に必要なのだろうか。周りがやっている、周囲の目がある、県教委からのお達しがある、いろいろあるとは思いますが、家でなんか十分な仕事ができない。密を予防するだけなら各教室で十分。校長だつて「本当に仕事をしているのかなか確認できない。だから、やったことを残しておくように」だって。出勤は10日に1度くらい。家庭でできることなんか無くなってしまふ。感染者の情報もない地域で、ここまでやる必要はないと思う。
◎密集を避けるために休校のはずが、課題受け取りの日には職員全員が出勤。職員室は密集していました。その日くらいは自主登校をさせず、そこに必要な職員を減らすべきかと思いました。
◎育児と仕事との両立が難しい。

家庭学習への対応

どの学校も主要教科を中心にプリント等の課題が出された様子でしたが、課題の内容や量については、市町や学校によって、3～6時間の時間割を組んだ学校や、時間割を組まず課題のみを示した学校など、さまざまな状況が見られました。

課題の準備については、多くの先生方が、大変な思いを抱えながら仕事をこなしている状況がうかがえました。特に、時間割を作成した学校で、1日あたりの時間数が多いと、課題準備に時間がかかり、教員の負担も大きかったようです。また、両親が共働きなどの家庭では、子どもだけで課題をこなさきれず、不安感を生じさせてしまうといった状況も見られました。

以下に、家庭学習への対応に関する先生方の声を紹介します。
◎まだ行っていない範囲の学習を家庭学習として出しているが、子どもたちの家庭での学習状況を把握できているわけではないので、この休校を機に学力差が出てしまっているのではないかと不安に感じる。
◎評価を家庭学習で取れるようにしても、信頼性は低い。結局、学校再開した後の評価で通知表をつけることになる。早く再開することが望ましい。
◎時間割を組んだ時点では、家庭でできる量だと思っていました。が、いざプリントを印刷してみると、家庭によっては、あるいは子どもによっては、大変かな、という気がしました。学年では、なるべく負担にならないようにしようとしていますが、なので、できない子

に対する声かけが必要だと思えます。また、授業が始まったら改めて学校で学習し直すことが必要と考えます。

◎さまざまな家庭環境がある中、学校からの課題が多いと、子どもだけで学習している状況では、無理があり、途中で投げ出してしまったり、不安を感じてしまったりする。さらには、親も子どもを叱ってばかりになるなど、家庭内ストレスにつながる心配もある。心のケアを重視して、無理のない範囲での課題にする必要があると思う。

◎新学年の内容を自習させ、学校再開後はその続きから授業をするというのが本校の方針。学力格差に目をつぶるやり方に憤りを感じる。

◎できれば家庭の課題を作りたくない。プリントにすると後から点検しなくてはいけないから。今後が不安。

◎休校の度に大量のプリント作成は負担に感じる。

◎評定をしなくてはいけないと、子どもに無理強いをするプリントになってしまいます。子どもが勉強嫌いになってしまったら本末転倒です。親子関係も悪くならないか心配です。

◎皆さん、よく考えて課題を準備していると思えます。

◎休業期間中の家庭学習は、家庭環境で大きく変わる。家庭によって、①紙媒体の宿題を多く出した方がよい、②オンラインの動画コンテンツがあった方がよい、③親が教えるから宿題は一切必要ない、など様々である。例えば保護者が、それらの中から選んで、①なら学校が準備、②ならおすすすめサイトを提示、③ならなし。いずれにしても、毎日どのように過ごしたかを担任が把握できるように、学習計画力リーダー

のようなものを統一して宿題に出すと良いと思う。個人によって宿題の量が違っていると、児童生徒から苦情が来るかもしれないが、休校期間中なので、という理由で「保護者が決めたことに対して教員がお手伝いをする」という発想でいいと思う。ただし、休校がこれ以上続くなら、日本の教育水準を保つ観点からして、この保護者希望制は改める必要がある。

◎一人一人に作っているのか、今どの程度理解できているのか、2月末の姿を想像して作っている。急に伸びる場合があるので。

◎各学校、各学年によりバラつきがある。こういう時こそ市内共有フォルダを活用して資料の共有を行い、それぞれの負担を減らすべきだと思う。

オンライン授業への対応

ネットを活用した家庭学習へのサポートは、教育委員会がネットによる学習教材を配信したり、タブレットやDVDを貸し出ししたりする取り組みが見られます。しかし、家庭によっては、子どもだけで学習したり、児童クラブで学習したりする環境もあり、ネット学習についての困難さが伴います。さらに、オンライン授業となると、公平性や通信費負担、教員の準備負担など、大きな課題があります。

以下に、オンライン授業やネット学習に関する先生方の声を紹介します。
◎パソコン操作やオンラインといったネット環境に頼る学習なので、全ての家庭で確実にできるようにするには無理があると思う。公教育で行う以上、慎重に対応してほしい。でないと、不公平感を招い

たり、格差を生じさせたりしてしまう。

◎ネット環境が整っていない中で、平等に教育するのは難しい気がする。外国語については、コミュニケーションがメインのはず。会えないなかで、どうやって授業や課題を作るのか分からない。手立てが知りたい。

◎犬山は、中3のみオンライン授業が実施となった。すべての家庭のICT環境が整わなければ、オンライン授業は行うべきではない。また、オンラインを行ったところをたいしたことはできないと思う。

◎ズームで生存確認などは有効かと思われる。繋がりを作るだけで精一杯。

◎まだ、なにも話はない状態です。このまま休校が長引くならば、必要になってくるとは思いますが、環境や方法など課題も多いと感じています。

◎各家庭でのネット環境が分かってないので、今は無理。オンライン授業をよしとしたら、どこかの予備校と同じになってしまふ。学校の良さは何かを考える必要がある。

◎ユーチューブ等で、動画に映ることで教員の個人情報漏えいしてしまうことの不安がある。また、録画されることを考えると、どのように使われるのかわからないので怖い。

◎何も伝わってない。また、遠隔授業をするなら、各々の教員に任せるのではなく、ベースとなる授業展開等を提示していただきたい。

◎時間をかけて誰もが使えるスキルを身に付けていくことが必要。教師と子ども両方にとって、自信をなくすようなことにならないよう、使えるようになることは、プラスの面も大きいと思うので。

◎学校は、いつから学力だけでよくなったのかと思いました。学校という小さな社会で、人間どうしが関わり、成長するのが学校のあり方だと思います。「授業が…」という声に敏感になりすぎて、オンライン授業は、いかがなものかと思えます。環境が整っていても、先生と子どもとの関係ができていない中でやるのはどうなのか。不安しかありません。

◎今のところ、私の地区は示されていない。思うこととして、教員には、ネット配信向けのビデオ教材を作成する労力が必要ない。ネット上に、すでにプロの授業がありあふれているから。素人が作成した所で、児童生徒は、なかなか画面に集中できない。対面式授業とは違い、ネット配信用の授業を作るのは番組構成の技術となり、教員のほとんどは素人だと思う。ズームは、便利だが近すぎる。SNSで生徒と教員は連絡を取らないと規定しているのに、ズームで個人と連絡するのはいいのか？すぐに事件が起きそうである。そのような事に時間をかけるより、学校が再開したときのために、教材研究などの準備をした方がよい。

◎ズームでのコミュニケーションは賛成。自作の動画は反対、企業制作のものを皆で共有する方が質が高いと思う。オンライン授業については、何も指示はない。

◎今後行う予定だと聞いている。新しいことを行うのも大切だが、普段の学校生活に加わるならまだしも、今の現状、様々な配慮が必要なため、負担が大きいのと思う。どこかで作成したものを視聴してもらい、教員の業務は、違うことに時間を割いていきたいと思います。